

こぶしだより

1997年4月18日(不)

発行 第207号

こぶし作業所

宇都宮市柳田町1401

☎0285(62)1911

こぶしの実践

リサイクル班

リサイクル作業のひとつにアルミ缶を回収・潰し、真箇にある神戸製鋼に持参しお金にする作業があります。昨年度は、一個一円で約二十万円になりました。その潰し作業を担っているのが、リサイクル班々長でもある新田くんとかぶしで一番若い仁美さんです。このコンビは三年目を迎えて、益々好調です。二人共、言葉によるコミュニケーションは困難なのですが、長い間の「あ・うん」の呼吸とでも言うのでしょうか、お互いに相手のペースや缶の量などを気にしながら時には缶を手渡し合いながら、一日缶と向かい合っています。仁美さんは市内の富屋養護学校中学部を卒業し、こぶしに入り、今年私たちは迎えました。言葉での意志表示が困難ですので、時には相手をガブリ!とやっ

てしまった事も正直多かったのですが、この頃はうれい

のですが、この頃はうれい

時・楽しい時には大きな歓声を上げ、何か知りたい・聞きたい事があれば低い声を出し手さし指さしで、あれは何と盛んに質問してきます。周囲の物や人にも興味津々で、いつも瞳を輝かせています。この仁美さんの作業への集中力や気のつき方には驚かされ

ます。自分の周囲に缶をたっ

ぶり散りばめ?缶に埋もれた

の作業です。手に豆を作った

り、傷をつけたりしながらも

頑張ります。又、牛乳パック

やアルミ缶を回収したトラック

が作業所に戻ってくるのと一

番に外に飛び出してきて、荷

降ろしをはじめます。足元が

少々不安定なのですが、何と

か所定の場所の収めようとひ

と休みふた休みしながら運び

ます。そして自分自身に「こ

苦労様、よくやりました」と

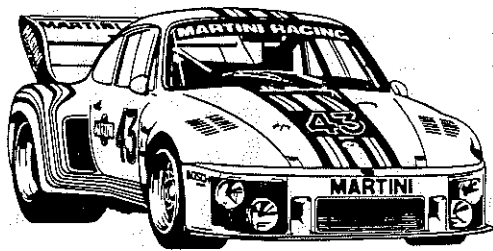
でも言う様に笑顔で拍手を贈

97 ホンダ夏祭り みんなで

大地97・9

今年も本田技術研究所・研友会が主催するホンダ夏祭りが去る8月3日(日)に開催されました。こぶし・けやき両作業所の仲間が本田労組より招待され、仲間・家族・職員合わせて8名が参加しました。

会場に夏祭りが始まる11時前に到着すると広い会場は多くの来場者で埋まっています。最初にこの広い会場を本田労組の方が1か所ずつ案内してくれました。



模擬店コーナーは開店前の準備で大忙しでした。特に牛の丸焼きのバッファローグリルからは牛が焼かれていて周囲に良い匂いを漂わせていました。また、キッズパークでは子供たちが様々な遊具で遊んでいてたのしそうな歓声があがっていました。会場を案内してもらった後は、一番のお目当てのPGクルーズまでは自由行動になり早速模擬店をまわりました。生ビールを片手においしい焼きそばや牛肉に舌鼓を打っていました。ステージではバンド演奏が始まり祭りを盛り上げてきました。私たちもお腹がいっぱいになった頃、PGクルーズの集合時刻になりました。PGクルーズとは、プロドライバーの運転でテストコースを約200キロの速さで走行することです。このクルーズが楽しみで夏祭りに参加する仲間もいる程です。時速200キロの体感には車に乗ってみたいとわがらない楽しみます。車から降りるとすぐに来年も夏祭りに来ようねと仲間と話していました。

本田労組の方々、楽しい夏祭りに招待していただきありがとうございます。ありがとうございました。

(田島)

(鈴木)

(田島)

障害児と対峙し様々な苦しみを通じて育ち合う若い夫婦障害児に係わる教師や同じ境遇の親たち。障害児が生まれ学校卒業の生き方を切り開くまでの実話を元にしたアニメ「どんぐりの家」を3回上映し、1200人を超える入場者があり成功裏に終わった。この上映会は、収益金で私たちが励ましたのが、回収された膨大なアンケートもまた私たちが大いに励ましてくれた詳細は次号の報告に聞くとし、ここでの観客の反応は小生が「こぶし」での財政活動で初めて出会ったものであった。半数近くの観客が帰ろうとせずアンケートにペンを走らせているのはそれだけ見れば違う場面のようであった。「夫も連れてきて見せたかった。」とは障害児の母。後援会の会員、学生はもとより、やっとな字を書き始めたであろう子供たちまでもがたどたどしく「おもしろかった」と感想を述べていた。2日間でも観客の光景も自分には初めて出会った。私の前で見ていた、おそらく圭子ちゃんの家族のような3人連れが真ん中に座らせていた子を夫婦が交わるがわる抱きしめているのだった。「泣いちゃうシーンが多すぎる」とも訴えられもした。小生も歳のせいか涙腺が緩くなったのかとは思っていた。隣の男性も鼻水をすすっていた。

作者の山本おさむ氏の初恋の人には家族に身体障害の少年がいたそう。このことが彼の生き方の原点になっているのだろう。「遙かなる甲子園」「わが指のオーケストラ」そして「どんぐりの家」と一貫して障害者問題をテーマに描き続けている。アニメ「どんぐりの家」はこの原作にふさわしく、資金ゼロから自主制作・自主上映方式で創られてきた。物語の主人公も、映画に係わった俳優(あゆみの箱賛同者)・音楽家たちも主人公たちの発する光りを受けて参加。全てにすがすがしさを包まれた運動となった。

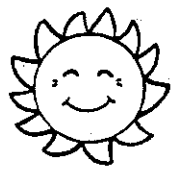
こぶしの原点と未来を感じるこのときできた2日間でもあったような気がする。

(鬼やんま)



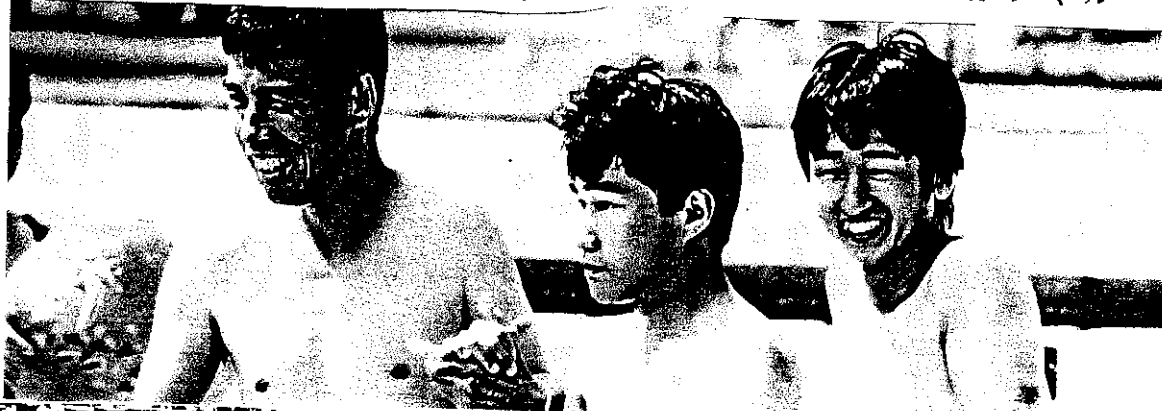
夏を大満喫!

フアミリリアプルツシルユで!



去る8月6日は前日まで続いた鬱陶しい雨空を一気にふきとばす青空でした。

この日は年に一度のプールの日。朝のうちだけは少しぐづついたものの、西那須野フアミリアプルに着く頃には空は晴れあがり、絶好のプール日よりとなりました。先に到着したのはこぶしの仲間。とおきの水着に着替えてプールサイドへ向かえばもうお昼。けやきの仲間を



待ちながらお弁当を食べることにしました。しかしなかなかやってきません。お弁当を食べ終わった頃、ようやくけやきの仲間が現れました。大田原市内が夏祭りのため道がこんでいたようです。食事が終わればお待ちかねの遊泳タイム。巨大な浮輪につかまりながらプールのへりを泳ぐ見目アイ子さん、なかなか水に入らたがらない野口君、うれしそうにはしゃぐ森下さん、みんな楽しそうにビーチボールを投げあったり、泳ぎを比べあったり(実際泳げる仲間にはほとんどいないのですが)体が重い仲間でも水の中ではその自由感が楽しいのでしょ



う。関本さんも浮輪につかまって楽しそうに泳いでいました。あっといいう間に楽しい時間が過ぎてしまいました。残念ながら、交通の時間や他の用事を考えて、けやきの仲間は2時でおしまい。続いてこぶしも2時半には引き上げることにしました。短い時間だったけど、たっぷり遊んだのでみんななくたくた。夏を満喫した一日でした。そうそう、天気がよかったため、日焼けして背中がヒリヒリになってしまった人もいます。仲間のみなさん大丈夫だったかな? (渡辺早苗)

ポップコーン

デンマークの知的障害者ロックバンド「ポップコーン」のコンサートの、去る8月7日(木)に栃木会館小ホールで開催され、こぶしとけやきの仲間が鑑賞してきました。私たちは、昼の部に行きましたが、会場に到着するとボランティアの人たちが元気よく案内してくれて、ホールに誘導してくれました。ホール内は満席に近い状態でコンサートの開演を待っていました。1部は「わらしべの里」の仲間のステージとアマチュアバンドの演奏で仲間たちは手話を交えながら元気よく歌っていました。2部はいよいよ「ポップコーン」の登場です。世界中を回って数多くの舞台を経験しているからか立派な演奏でした。楽しい時間を過ごさせてもらいました。ありがとうございました。



仲間が変わりました

今年度になって、こぶし作業所では入退所が続き仲間の顔ぶれが少し変わりました。6月末退所、鈴木克弘君↓ギヤラリー「のろぼっけ」で「さおり織り」にとりくんでいます。7月末退所、酒巻久子さん↓おばあちゃんの介護をするため在宅。8月末退所、八巻忍君↓新設の更生施設「美里学園」(益子町)へ措置変更。代わって、実習生で通所していた仲間たちが、正式入所となりました。



9月のこよみ

28	27	23	21	20
(日)	(土)	(火)	(日)	(土)
休	休	休	職員会議	職員会議
所	所	所	スポーツ大会	スポーツ大会
日	日	日		